



9月お彼岸を過ぎ、ようやく涼しさを空気に感じられる日が来ました。グリラ参観詐欺のような1週間。申し訳ございませんでした。気温が下がればグリラ参観も、運動会も行ないます。ぜひお時間を作ってお越しください。

臼井幼稚園には色んなお子さんが在籍しています。特別に支援の必要なお子さんが年々増えているのは、当園のことばかりでなく、他園の園長先生方もそうおっしゃっています。そしてここ10年くらいのことですが、クラスがなかなかまとまらない、というも頭を傾げて何故だろう？と不安視しているところです。

幼稚園の設置基準の第三条において、「1学級の幼児数は、35人以下を原則とする」と定められていて、臼井幼稚園については昨今30名を下回る人数です。さらに特別支援のお子さんのサポートのために各クラス最低1人は支援の先生が入っています。

先生がクラスの全員に話をしている時、「僕はね、」、「私は、」と自分の話を始めてしまい、担任が話したくても進まないことがあるのです。その子に悪気はなく、先生との1対1の関係を求めてくるのです。でも、担任が話そうとしているのに「僕ね、」と始まったらどうでしょう。困った子、気になる子、とのレッテルを貼られてしまうこともあります。

どうしてこの子はこのタイミングで「先生、先生」と求めたのでしょうか。この答えとも言えるものを上原文先生の文章に見つけられたので、保護者の皆さまにも関係のあることですので、そのまま記載させていただきます。

以下、上野先生の文章より

人間はもともと「集団の中でつながり合って生きる動物」です。けれど他の動物とは違い、人間は、集団に入る前の段階がとても重要です。この段階で「個・自我の安定」を得ることが必要不可欠で、これがないと、集団にうまく入っていくことができません。

「ありのままを受け入れてもらえる」

この受容があつてこそ、心の奥底が安定します。記憶に残らないこの時期の対応が人間の一生を決めると言っても過言ではないのです。～中略～心の安定を得られないまま成長してしまった結果、様々な問題が起きてしまっている気がしてなりません。

女性の社会進出とともに、子どもを小さいうちから保育園などに預け、集団の中で育てる傾向があります。これはみなさんのせいではなく、社会の構造が、母となった女性も働かなくては生活していけない社会構造に問題があると私は思います。そしてもうひとつは、スマホです。赤ちゃんにお乳をあげながらスマホをいじったり、子どもに話しかけられているのに、上の空で返事をしたり、「あとで」「待って」と子どもが二の次になってしまう。

心も成長していくものです。そこを踏み外すと、次の段階に進めず、あとあとまで影響するそうです。目の前のお子さんの情緒の成長と安定のための「受容」を、ご両親も、私たち保育者もしっかりとしていく必要があると感じています。

子どもは、自分だけが受容されたいのです。「先生（パパ、ママ）が僕を見てくれている」という安心感は気持ちを安定させます。安定すると、周囲が見えてき、他の子を思いやれるのはそれからとなります。

小学校以降、学級崩壊、不登校、ひきこもりなどが社会問題化しています。虐待もあとを絶たず、増加傾向にあります。心の発達が未熟なまま身体だけ成長してしまった子ども達の出している、やるせないSOSに思えます。子ども達の心の安全基地となれるように、子育てを一緒に考えていきましょう。悩みがあれば、いつでもお話しください。

（参考：世界文化社 pripriより上原文 社会保険福祉士）

*佐倉市の美術展に昨年度出展してみましたが、園児の作品の中から数点選び出すのが心苦しいのと、どうみても保育者の手が入っている作品に金賞がついているのを見て、嫌悪感を抱いてしまい、今年度はまた出さないことにしました。

*毎年梨狩りにご協力くださっていた出山梨園様が、梨の栽培を今年より中止するとのこと。幼稚園児の梨狩りにご協力くださる梨園が見つからないので、今年度より 梨狩りは中止します。

園長 志田裕美子

<年中組今月の目標>

健康・・・それぞれの種目に意欲を持って取り組む。
人間関係・・・友達の気持ちを考えて行動する。
環境・・・自分の持ち物やロッカーを整理する。
言葉・・・綺麗な言葉遣いで話す。
造形・・・描画、絵手紙、壁面製作
音楽・・・「森のくまさん」「あらかどこだ」
「おへそ」「やきいもグーチーパー」

<担任から今月のメッセージ>

まだ真夏日が続いていますが、2学期が始まりましたね。

「プール行ってきたよ！」
「山でキャンプして魚釣ったんだよ！」
「大きいホテルに泊まったの！」
「博物館に行って大きい恐竜の骨みたの！」
「映画たくさん見たよ！」
と、夏休みの思い出話をたくさん聞かせてくれました。それと同じぐらい、
「早く幼稚園に来たかったんだ！」
「先生が夏休み何してるかずっと気になってた！」
「あと何日で幼稚園ってカレンダー作ったよ！」と、2学期を楽しみにしている子がいて、嬉しく思います。
給食では、野菜が苦手で、野菜とにらめっこをしていた子が、「これでいいですか！」とピカピカになったお皿を見せに来てくれる子が増え、驚いています。
最近では、お皿を持って食べこぼしをしないことを目標にしています。
ご家庭でも気づいた時に声を掛けていただけると幸いです。

みんなが楽しみにしている「毎日運動会」の時期がやってきました。子ども達は、

「運動会まだ？」
「早くママとパパにかっこいいところ見てもらいたいな」

「おばあちゃんも見に来るんだよ！」
と、運動会をとても楽しみにしています。にし組の友だちはみんな仲間だからね！と普段は話していますが、運動会はクラスを2つに分け、赤対白で得点を競います。負けず嫌いな子が多く、毎日の運動会ごっこが始まる前に教室で、

「絶対に負けない！」
「絶対に勝つぞ！」
と気合が入っています。
チームは固定ではなく、時々変えています。
どのチームになっても、チームワークを大切にしたいので、運動会ごっこだけではなくゲームの時でもチーム戦にして団結力を高めています。

体育の時は

「見ている人は応援よろしくね」が口癖でしたが、運動会ごっこが始まり、教室に戻ってきた時に「〇〇ちゃん、大きな声で応援してて素敵だったね！」と伝えると、次の日には「応援も頑張るぞー！」と気合いを入れている

子がいました。

運動会ごっこでは、リレー、だるま落とし、お友だちとタッチなど様々な競技に全力で参加しています。

特にリレーでは、

「バトンを渡すのもっと速く出来ないかな」と聞くと

「はい！って渡せば速くなるんじゃない？」

「アンカーの子が来たらすぐ座るのも大事だよね！」

と、運動会ごっこの前に話し合っている子もいます。

「玉をだるまに当てるのが難しいよね」

と友だちが話していると、得意な子が

「強く投げたらあたるかもよ！次やってみよう！」

「だるまの頭を狙ったらいいよ」と

コツを教えてくださいました。

にし組は勝ち負けにこだわり、負けた時に、「悔しい…」

と落ち込んだり、涙目になる子もいました。

そして、「次は負けない！」と気合いが入り、より一層気持ちが強くなりました。

できなかったことが、出来るようになる喜びは、人と分かち合うことで何倍にも広がっていきます。自分のことだけでなく友だちのことも考えられる、思いやりのあるクラスになって欲しいです。

本番では、いつも以上の力を発揮出来る子も、緊張してしまう子もいるかもしれませんが、たくさんの応援と温かい拍手をよろしく願いいたします。

渡辺 由佳

